



NPO法人 大磯ガイド協会

照ヶ崎

第56号
令和6年2月1日

〒255-0003 神奈川県中郡大磯町大磯 1933-1

TEL 0463-73-8590

ホームページ

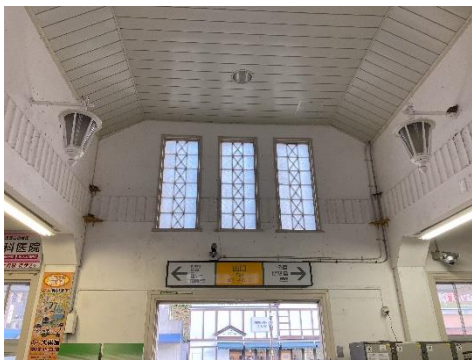
<https://www.oisoguide.com>



「100年の歴史を刻む大磯駅舎」

磯川 寛光

大磯駅は、大磯海水浴場開設の立役者である松本順の尽力により、明治20年に仮駅舎が開設された。その後、明治43年に初代駅舎が建築されたが、関東大震災の時に倒壊し、現在の二代目駅舎が大正13年10月に再建され



て、本年で100年にあたる。オレンジ色の切妻屋根を直角にふたつ組みあわせた建物で、コンコースに入るとレリーフでデザインされた高い天井、アール・デコ風の細工が施された三連縦長窓やその上部の換気口、ガス灯を模した照明(写真)などがある。さらに建物のホーム側には2ヶ所のドーマー窓があって、西洋を感じさせ大正時代の面影を残している。平成12年に、明治時代から別荘地となっている気品ある地に、端然と佇む木造建築の駅として、「関東の駅百選」に選定、平成21年に、湘南の海水浴関連遺産として、「近代化産業遺産」に認定された。

震災直前の大正11年に北口開設、昭和5年に駅舎、ホーム、跨線橋、北口改札の改良、昭和38年に駅前広場が舗装されている。平成20年には、バリアフリー化により跨線橋の移転、駅売店の撤去、トイレが新設され、現在に至っている。以前は、現在のエスカレーター付近に出口専用改札口があって、売店があった。昔はその場所に貴賓室があって、当時の高官が列車待合せに利用していたとされる。貴賓室で使用されていたテーブルやイスなどの調度品の一部は、大磯町郷土資料館に保管されている。このほかにも、ホームには事務室や売店があり、広重の浮世絵「虎が雨」のある場所には東華軒のお弁当ブースがあった。また、平塚寄りには踏切があって、山側の住宅や別荘の便に供していたという。

多くの駅には広告看板があるが、大磯駅にはそれが無い。元勲たちが利用する駅に広告を表示してはならないという伝統が生まれたからであろうか。戦後の一時期、看板を立てようとした際に坂西志保、獅子文六ら在住の文化人が抗議したという逸話がある。周辺の緑豊かな景観と相俟った駅舎の姿は、良き大正・昭和の時代をしのばせ、ガイドをする私たちの誇りである。

————— 今後の企画ガイド他予定 —————

| No. | 月日 | 企画ガイド(略称) | No. | 月日 | 企画ガイド(略称) |
|-----|--------------|---------------|-----|---------|--------------|
| 1 | 2/ 4(日) | 共催:吾妻山の菜の花・国府 | 4 | 3/ 9(土) | 明治の群像・財閥 |
| 2 | 2/ 8(木)10(土) | 大磯の梅の名所を訪ねる | 5 | 3/16(土) | ガイド養成講座説明会 |
| 3 | 2/24(土) | 東海道大磯宿をゆく | 6 | 4/ 6(土) | 春爛漫 湘南アルプス縦走 |

活動報告 令和5年11月～令和6年1月

——企画ガイド「明治の古地図を片手に大磯散策」——

11月11日(土) お客様53名 ガイド7名



鳴立庵

大磯の方6名、二宮の方2名のお客様と共に、古地図「神奈川県大磯明細全圖(明治27年発行)」を片手に、吹き荒れる風も物ともせず出発した。地元の身近なテーマとして参加者の関心も高く、道々、多くの質問や地元に住んでいても通ったことが無かった道の発見など和気あいあいと3時間の長丁場を完歩した。江戸時代、宿場町として栄えた大磯も、明治5年の宿場制度廃止以降、街道筋の宿や商店などは傾き、町は徐々に荒廃していった。しかし、明治18年夏、松本順が日本初の海水浴場を開設し、大磯駅の誘致、歌舞伎演目での宣伝などにより、多くの著名人が長期

滞在し別荘を建てるようになった。今日の明治27年を辿るツアーは、明治41年度の避暑地人気投票で大磯が1位になるまでの復興期の様子を知る上で、とても意義のあるものだった。(平山 信廣)

——共催ガイド「城山公園アート散歩」——

11月25日(土) お客様33名 ガイド5名

大磯町出身の川瀬忍氏(陶芸)と藤塚松星氏(竹芸)のギャラリートークは、お二人が小・中学校で同学年だったこともあり、和気あいあいのムードの中進んだ。その後、お二人の話を聞きながら作品を鑑賞し郷土資料館でのイベントは終了。城山公園でのガイドが始まった。まず、ふれあいの広場で茶室「如庵」を偲び、城山荘本館跡の展望台、古材を使った諸堂があったひかりの広場、国府橋を渡って、かつて陶器細工所「潜庵」があったもみじの広場へ。潜庵は一時期、川瀬忍氏の祖父・初代川瀬竹春氏が作陶していた場所でもあり、不思議な縁を感じた。ガイド終了後はライトアップ(写真)も始まり、夜空に浮かび上がるもみじを楽しんでいただいた。



(金子 正美)

——共催ガイド「国宝如庵を模した城山庵お茶席と紅葉」——

12月2日(土) お客様33名 ガイド8名

例年より遅れた紅葉がぐんと美しく見えるようになった12月初旬、城山公園の散策と城山庵(写真)でのお茶席にご案内した。「城山公園周遊→お茶席」「お茶席→城山公園周遊」の2コースを8人のガイドが交互に案内をしていく。



三井財閥のトップであった三井高棟が過ごした建造物や庭園の話をしつつ、今は無き陶芸の窯跡等もご覧いただく。美しい紅葉を愛でながら、普段より少し暖かい気候は散策に丁度良い。どちらのコースも露地に入ると一旦心を落ち着けて庭を眺め、小さな蹴り口をくぐって薄暗い茶室へと入っていく。国宝如庵を模した城山庵の内部は様々な意匠が目にも楽しい。亭主は心から客をもてなし、茶を飲む時間をツアーに参加した皆様と共有する。蹴り口をくぐって出てきた方たちは皆一様に笑顔で、美味しいお茶とお菓子、そして軽快

な亭主の話で和んだようだった。城山公園の歴史や三井高棟、そして素晴らしい城山庵という茶室をより多くの方に知っていただいたと思う。(高野 幸代)

企画ガイド(英語)「紅葉の湘南アルプス」

12月9日(土) お客様25名 ガイド5名



ガイド風景

私立大学の短期留学生を中心に、オーストラリア、イギリス、フィンランド、ウクライナなど様々な国の方々を、英語によるガイドで、8kmの湘南アルプス・ハイキングコースを案内した。

好天に恵まれ、気温も18度と丁度良く、湘南平からの富士山がはっきり見え、冬の湘南平のハイキングを満喫していただいた。

道中、参加者から活発にフィードバックがあり、ガイドとして、やりがいがあった。更に、留学生は好奇心旺盛で、当初簡潔に留める予定であった妙大寺や白岩神社も説明し拝観した。また曾我物語の説明では、「西洋なら現実の王様などのストーリーを舞台化、小説化するが、日本では逆に伝説を

重要視して楽しむところが面白い」とのコメントがあり、外国人から見た日本の感じ方が興味深かった。

イタリアの留学生からは、「大磯はすばらしいところだとわかった。大磯でイベントあったら、また誘ってほしい」との好印象をもってもらった。

(宮本 啓)

会員研修 「三井財閥」

12月17日(日) 参加者39名

斎藤直人会員による三井財閥についての講演があった。約1000年前に武士となった藤原信生は近江で三つの井戸を見つけ三井と改名し、戦火を逃れて松阪に流れ着き、商いに転ずる。後に三井越後屋を名乗り、京都の仕入れや江戸への進出、商法の革新や体制の順応、幕府による種々の指定や拜令を受け、呉服商や両替商等の幅広い商いを営み、着実に財と組織を強化して三井11家を築いた。財産は共有し、利益を分配する「宗竺遺書」による管理を行った。幕末以降は競争相手の多い中、外部から優秀な人財を番頭に迎え混戦を制した。昭和にかけ財閥の頂点に立ち三井合名会社の体制を確立する。大戦後はGHQの財閥解体にあい、多くの財閥は消滅する中、三井グループは時と共に再びホールディング化しているのが現状である。三井家は1000年の時代を自在に変化させ順応できるDNAを作り上げてきた一族と考えられた。斎藤講師は三大財閥を“人の三井、組織の三菱、結集の住友”と講演を結び、三井の人材育成がいかに重要であったかを強調していた。講演を聞き、私達も三井家に関するガイドでは、これまでより深い話ができると思った。

(塩谷 廣範)

企画ガイド「左義長を訪ねる」

1月14日(日) お客様63名 ガイド9名



国の重要無形民俗文化財に指定されている「大磯の左義長」が北浜海岸で開催された。お客様は下町の9地区の道祖神をお詣りする中で、ご神体が地区ごとに御幣・双体道祖神・庚申塔と違う形態であることや、ご神体が当日海岸に建てられた「サイト」(写真)の傍に運ばれていることに興味を持たれていた。子之神では「ヤンナゴッコ」と呼ばれる綱引きに使用する櫓の見学の後、前日までご神体を祀っていた「お仮屋」のあった場所で、子供達が太鼓をたたいて前夜祭の雰囲気を感じさせてくれた。海岸の津波避難タワーから9つの「サイト」を見て大きさに感心し、長者町では甘酒・豚汁・日本酒のおもてなしを全員が楽しみ、北下町福祉館でのビデオ鑑賞で左義長

全体の理解が深まった様子であった。数組の方たちは竹の竿に取り付けたお団子を購入してサイトの火で焼いて食べ、無病息災を願い左義長を満喫されていた。

(吉良 雅治)

特集「室町・戦国時代の磯近辺の戦い」I 時代背景 武山 加根子

これからシリーズで、相模国大磯の近辺で起った戦いについて記してみたいと思う。三つの峰からなる高麗山は大磯の象徴的存在であり、渡来人や虎御前の伝説、徳川家康を祀った高麗寺などが所在したパワースポットである。その山容は相模平野の南端にそびえ、戦国武将たちの戦略的拠点であった。また、国道1号線を西に向かうと、行く手を遮るように丘陵が横たわり、ここは大磯の城山(じょうやま)と呼ばれ、長尾景春の被官が籠城したという小磯城の伝承地である。これらの地で繰りひろげられた戦いの概要を述べてみたい。

I 時代背景

鎌倉時代は、文治元年(1185)源頼朝が平家を滅亡させ、政権を樹立したときから始まる。その後、源氏から北条氏への政権交代を経て、第8代執権「北条時宗」が国難だった元寇(文永の役、弘安の役)を克服した。元弘3年(1333)第14代執権「北条高時」の時、後醍醐天皇に呼応した足利尊氏が京都六波羅探題に攻め入り、新田義貞は鎌倉に攻め入って、148年間続いた鎌倉時代は終焉を迎えた。新田義貞が鎌倉に攻め入った際に、大磯の新楽寺に放火したと伝えられている。この寺は相模国の大寺で、高麗寺に匹敵する規模だったという。源頼朝の信仰厚く、妻政子の安産祈願所の一つでもあった。現在、跡地は「谷戸観音」(写真)が祀られている。



その後、後醍醐天皇の建武の中興の失政を受け、足利尊氏は武士の復権を掲げて光明天皇を即位させ、後醍醐天皇を吉野に追放した。建武5年(1338)征夷大將軍の宣旨が下り室町幕府を開いた。後醍醐天皇は南朝(楠木正成)と称したのに対して、光明天皇を北朝(足利尊氏)と云い、皇室が南北朝に分かれた状態が続いた。対立は北朝の足利側に有利に進み、第3代將軍「足利義満」は、南朝を北朝に合一するよう呼びかけ、明德3年(1392)南北朝を統一した。室町時代の呼び名は、足利義満が京都の室町に開いた御所が政治の中心になったことによる。この時代を南北朝時代ともいう。

その後、応仁元年(1467)、8代將軍「足利義政」や、有力な守護大名の後継者問題が重なり、細川勝元の率いる東軍と、山名宗全の率いる西軍が11年間も戦った「応仁の乱」により、京は荒廃し幕府の権威も地に落ちた。各地で身分の低い者が高い者を打ち壊す「下克上」が発生し、群雄割拠の時代へと移っていった。そして、天正元年(1573)、織田信長が第15代將軍「足利義昭」を京から追放し、室町時代は終わりを告げ、安土桃山時代へと進んだ。なお、応仁の乱から豊臣秀吉の小田原攻略により、全国統一するまでを戦国時代とする説もある。

室町幕府の仕組みは將軍の補佐役として管領(かんれい)を置き、守護は有力な地方大名などから選ばれ、守護大名が交替で管領に選ばれた。関東には鎌倉府が置かれ、室町幕府による関東支配の拠点となった。関東公方(関東府長官)には、足利氏の一族が世襲で就任した。次回は高麗山が戦いの舞台に登場する関東公方足利持氏が、反旗を翻した「永享の乱」を採り上げる。(つづく)

【お悔やみ】 本年1月、前山茂顧問、中後乗雄会員が逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

【編集後記】 昨年よりコロナによる規制が緩和され、まちも賑わいを見せるようになり、新年を迎えて誰もが明るい一年を期待していました。その矢先、能登半島を震源とする大地震、羽田での航空機衝突事故と相次いで悲惨なニュースが舞い込んできました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

大磯では災害に対する避難計画が整備されており、町内では地震、津波訓練を行い、ガイド時には緊急避難マップを準備して万全を期しています。今年は昨年以上に多くの観光客が訪れることと思いますが、今まで以上に楽しい計画を用意して皆様のお越しをお待ちしております。

(三田村 洋子)